

承認	議長	副議長	事務局長	次長	合議	担当

様式第1号

令和6年9月23日

真庭市議会
議長 小田 康文 殿

真庭市議会議員 大月 説子

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

- 1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動
- 2 訪 問 先

岩手県盛岡市内丸13-1
トーサイクラシックホール岩手

- 3 内 容
- 第19回全国市議会議長会研究フォーラム

- 4 行 程 別紙のとおり

- 5 事務局から訪問先への依頼 必要 不要



(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

第19回全国市議会議長会研究フォーラム参加者

黒川愛、大月説子

第19回全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡行程表

		料金
10月8日		
落合総合センターから自家用車で岡山空港まで		
岡山空港	14時00分発 ANA	
東京モノレール	東京着 15時20分 浜松町	26,020(往復)
山手線	東京着 所要1時間	
東京駅発こまち39号	17時20分発	
盛岡駅着	19時33分	29,770(往復)
宿泊先	R&Bホテル盛岡駅前 レディースプラン5500円+朝食700円	6,300円
10月9日		
午前中⇒岩手県立博物館や郷土資料館を見学	公共交通	
盛岡駅タクシーかバス	トーサイクラシックホール12:00	
ホテルメトロポリタン盛岡にて意見交換会	13:30 第19回全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡16:50分終了	9,000円(参加費)
宿泊先	R&Bホテル盛岡駅前 レディースプラン8200円+朝食700円	8,900円
10月10日		
ホテル発8:00タクシーかバスで	トーサイクラシックホールへ	
9:00課題討議	第19回全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡	
11時閉会式		
トーサイクラシックホールから盛岡駅へ(タクシーかバス)		
盛岡駅発はやぶさ22号	12時50分発	
山手線で浜松町へ	東京駅着 15時04分	
浜松町からモノレールで羽田空港へ		
羽田空港	18時発 ANA	
岡山空港	岡山着 19時15分	
岡山空港から自家用車で落合総合センターへ		

報 告 書

令和6年10月24日

真庭市議会議長 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 黒川 愛



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 令和6年10月8日 (午前・ <u>午後</u>) 0時15分 至 令和6年10月10日 (午前・ <u>午後</u>) 8時045分
2 場 所	① トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館) ② 岩手県立美術館
3 用 件	① 第19回全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡 『主権者教育の取組報告』 ② 県立美術館の視察見学
4 概 要	別紙のとおり



研 修 報 告

① 「第 19 回全国市議会議長会研究フォーラム in 盛岡 主権者教育の新たな展開」

岩手県盛岡市のトーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)にて 2 日間開催された。毎年開催されている全国フォーラムで、主催者報告によると、今年は正副議長をはじめとする市議会議員や職員含め、計 2,365 名の参加があった。

※プログラムやスケジュールについては、チラシ参照。

(1 日目)

神戸市議会議長の坊恭寿(ぼうやすなが)会長の主催者挨拶、遠藤政幸盛岡市議会議長の開催地挨拶などに続き、菅義偉第 99 代内閣総理大臣からのビデオメッセージがあった。予定では、基調講演として位置づけられていたが、国会日程のため、ビデオメッセージとなり、大変残念であった。

国会日程ということで、リアル登壇からオンラインへの変更は仕方がない部分があるが、内容が基調講演から単なるメッセージに変更となり、主権者教育の重要性をなぞらえただけの内容が薄いものとなったことが、残念だった。

その後、真庭市議会の議員研修にも来て頂いた、土山希美枝氏(法政大学法学部教授)などを含むパネルディスカッションが行われた。2 時間程度の短い時間だったが、現状と課題、今後について議論を交わし合うような非常に濃密な内容で、出来ればあと 30 分、1 時間勉強したい、このパネルメンバーの話を聞きたい、盛岡に来てよかったと感じた。

土山氏は「誰がための主権者教育か。議会が主権者教育をするのはやめたほうがいい」ということを強く論じていた。政府の一翼である議会機関が、市民を教育、育成するのはおかしい。市民に議会を活用してもらうことで、主権者教育に役立ててもらうことが大切だと改めて感じた。そのために、議員がまちに出て、地域や学校で、社会課題を話し合い、課題をすくい上げ、また返していく(フィードバックする)ことは、主権者教育にも役立つだろうと思う。

一方、越智大貴氏(一社 WONDEREDUCATION 代表理事)と渡辺嘉久氏(読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局)が高校での取り組みと課題について話された。18 才から投票できるようになったが、「自分が正しい人に投票できるかどうか分からない」ということで、投票をしない生徒が多いとのことだった。パネルディスカッションでも論じられたいたが、自分自身の考えや意見より、「正しさ」を常に求められる社会に不安を感じる。自分の考えや思いが尊重される社会であってほしい。私自身は、投票に失敗しても、次の選挙があるのが民主主義であり、自分の投票先をチェックすることこそが次の未来へつながると思っている。

夜には、会場を移動し、1 時間程度の意見交換会があり、全国から集った議員と話しを

することが出来た。

(2日目)

議長など議会代表者3名を招いて、「地方議会の課題と主権者教育」をテーマに課題討議が行われた。同じく2時間程度であったが、議会にとっての課題や主権者教育の取組みは、結果的に同じようなものが多く、高校生との意見交換や市民と語る会など、真庭市議会では既に取り組んでいるものも多かった。また、取組みを深めて学びを得るという内容でもなかったため、2時間は勿体なく感じた。時間を短くするか、パネリスト側に変化を付けるか(参加した市民や職員、先生など)、できるだけ多くの議会の取組み報告を入れるなどがあったほうが良かった。

とは言え、フィードバックの方法は大変参考になった。真庭市議会では高校生との意見交換のフィードバックは行っていない。意見交換で出た意見をまとめ、必要に応じて議会で取り上げ、執行部に提言し、その内容を高校生にフィードバックしていくのは大変重要だと思う。参加していない生徒や保護者にも伝わるよう、シートにまとめる市議会があった。市民が頑張って発言したことがどのように活かされるのか、市民目線に立った取組みが必要である。

私は、全国市議会議長会研究フォーラムは初参加だった。主権者教育は一般質問で取り上げたテーマであるが、真庭市だけでなく、日本全体で充実が求められる分野だと思う。

専門家や本などからの学びとは違って、このような全国の議会人が集まって研修する場では、議会としての役割や課題、可能性を学ぶことが出来る。これは、東京で開催される『全国地方議会サミット』で感じることでもあるが、貴重な機会だと思っている。議員1人の活動ではなく、議会全体チームとして活動することで、より大きな成果が得られる。

今回の研修では、「主権者教育」とは誰のためで、議会として何が出来るのかということに改めて学んだ。議会は何かを教える場ではないが、議会が「市民に開かれた場・市の課題を議論する場」となり、そのことで市民の社会参画が進み、地方自治・地域自治が進むよう、議会メンバーの一人として責任をもって、議会活動・議員活動に努めていきたいと思った。

② 岩手県立美術館 視察見学

地元岩手県の作家を中心とした企画展、常設展を見学した。企画展「菅木志雄 揺らぐ体空」については、県立美術館の会場の為につくられた作品が3作あり、会場の特色を最大限に生かした作品を体感できた。また、空きスペースなどを活用した、子どもたちとのプログラムの様子がパネル展示されていて、参考になった。

写真



盛岡市議会議員が、ホール階段の両脇に立ち、来場者をお出迎え



盛岡市、盛岡市議会 歓迎の挨拶



菅義偉第99代内閣総理大臣
ビデオメッセージ
(議長会ホームページより)
※手元のカメラでは暗くて撮影できなかった



1日目 パネルディスカッション

「地方議会の課題と主権者教育」

コーディネーター：

井柳美紀静岡大学人文社会科学部法
学科教授

パネリスト：

土山希美枝法政大学法学部教授、越
智大貴一般社団法人 WONDER

EDUCATION 代表理事、渡辺嘉久読
売新聞東京本社教育ネットワーク事
務局、遠藤政幸盛岡市議会議長



2日目 課題討議

「主権者教育の取組報告」

コーディネーター：

河村和徳東北大学大学院情報科学研
究科准教授

報告者：白鳥敏明伊那市議会前議

長、諸岡 覚四日市市議会議員（第
83 代議長）、服部香代山鹿市議会議
長



岩手県立美術館

菅木志雄「揺らぐ体空」

展示

第19回

全国市議会議長会 研究フォーラム



大会テーマ
主権者教育の新たな展開(仮)



●プログラム(予定)

◆第1日目:10月9日(水)

13:00 開会式
13:20 基調講演
14:40 パネルディスカッション
16:50 終了・移動
18:00 意見交換会

(於:ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING)

◆第2日目:10月10日(木)

9:00 課題討議
11:00 閉会式
11:30 視察

※講師、申込方法等詳細は
決まり次第、全国市議会議
長会ホームページに掲載
します。



※盛岡市の紹介は、
こちらからご覧ください。



令和6年

10月9日[水]▶10日[木]

トーサイクラシックホール岩手
(岩手県民会館) 岩手県盛岡市内丸13-1

定員 2,300名 参加費 9,000円

- 主催:全国市議会議長会
- 後援:総務省(予定)
- 協賛:全国市議会議員互助会、(尚)都市企画センター
- 実施:第19回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会



報 告 書

令和6年10月21日

真庭市議会議長 小田 康文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 大月 説子



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 令和6年10月9日 (午前・午後) 10時 分
		至 平成6年10月10日 (午前・午後) 11時 分
2	場 所	① 岩手県立美術館 ② トーサイクラシックホール岩手 (岩手県民会館)
3	用 件	① 岩手県の文化に触れる ② 第19回全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡 —主権者教育の新たな展開—
4	概 要	10月9日10時～11時 岩手県立博物館を見学 13時～16:30 第19回全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡に参加 13時20～ 基調講演 前総理大臣菅直人氏 14時20～ パネルディスカッション 16時20～ 次期開催地挨拶(札幌市議会) 16時30 終了 10月10日9時～11時 第19回全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡に参加 9時～ 課題討議 11時 閉会式 <10月9日午前中> 岩手県立美術館を訪問



菅木志雄の特別企画展「揺らぐ体空」を開催していました。菅が当館のために作成した巨大インスタレーション3点を再展示してありました。「ものごとは不確かである」というテーマの下、菅は館内のグランド・ギャラリー、光壁前、屋外展示スペースの3カ所に、それぞれの空間に合わせた巨大なインスタレーション作品《揺間》、《集向》、《散立》を制作していました。これらの作品を構成する素材は、石や木、金属、ビニール、釣竿等、私たちの身近にあるものです。菅はそれらに極力手を加えず、空間に置いて組み合わせています。



<岩手県立博物館入口にて>

<感想>

全国市議会議長会フォーラムが午後からの開催であったため、岩手県の文化に触れることを目的に岩手県立美術館を訪問しました。当美術館では、岩手県出身者や繋がりのある作家の作人を展示してありました。菅木志雄の小企画展「揺らぐ体空」を理解することは難しかったですが、石や木、金属、を活用した色のグラデーション壁画がいくつも展示されており、グラデーションが絵になり、人々を癒す効果があることを初めて知りました。

岩手県立美術館は広く、空き部屋もあり周囲も自然に囲まれています。入館者は少なく、周囲の公園には雑草も多く、子どもや高齢者の居場所としてもっと整備されると当美術館の入館者が増え、更に活かされる場所になるのではないかと感じた。

<10月9日13時から第19回全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡に参加>

前総理大臣菅直人氏の講演は、衆議院選挙がまじかとなり、オンラインで挨拶された。

(パネルディスカッション)テーマ:主権者教育の新たな展開

コーディネーター:井柳 美紀氏:静岡大学人文社会科学部法学科教授

パネリスト

土山 希美枝氏:法政大学法学部教授

越智 大貴氏 :一般社団法人WONDER EDUCATION 代表理事

渡辺 嘉久氏 : 読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局

遠藤 政幸氏 : 盛岡市議会議長



静岡大学人文社会科学部法学科教授井柳美紀氏は、令和5年に地方自治法が一部改正され、地方議会は投票率の低下や無投票当選の増加、議員の性別や年齢構成の偏りなどの課題を抱えており、この法改正を踏まえて、議会とは何かを住民に確り理解を頂き、女性や若者など多様な人材の議会への参画を一層進めていくことが必要である。と提言された後、教育基本法第8条で良識ある公民たるに必要な政治教育は、教育上これを尊重しなければならない。と述べていることや、文科省通知「高等教育における政治的教養と政治的活動について」や文科省通知「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動について」の話があった。

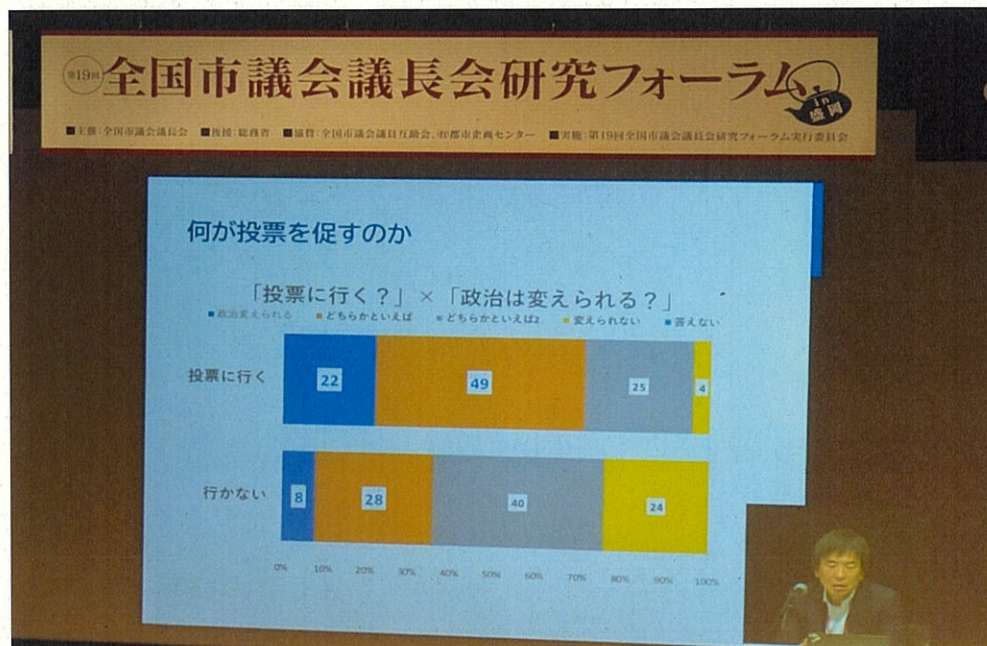
法政大学法学部教授土山希美枝氏は、冒頭最初に「自治体議会に学生を招いて発言してもらったり学びの場にしてもらったりすることを、「議会」が「主権者教育」していると称するのはやめませんか。と提言がありました。誰のための高校生議会か？山形県遊佐町のような、政策を実体化する権限と財源を持った実践的教育に至る道は遠いとしても、議会が教育の「場」として活用されるのであれば、そこには意義がある。高校生議会が、「高校生を議会が教育する場」なのか、「若き市民の市民参加の場」なのかで、議会の向き合い方は変わってくる。土山先生は、地方議会や議員について持つ印象(N=1,332)の調査結果を示された。地方議会は何をしているのか分からない50.7%、地方議員は何をしているのか分からない52.7%がそう思うと答えていると。

一般社団法人WONDER EDUCATION 代表理事越智大貴氏は、「若者は、政治や社会をどうとらえているか」について、「若者は、関心がないわけではなく、参加しても意味がないと思っている。議会の役割は、交流の機会を増やし、「自分の意見が聞いてもらえる」と思ったり「自分のアイデアが反映されるかも」と感じられる機会を増やすこと。

学校環境における主権者教育の現状について、政治的中立への過度な配慮があるが、それは学校が悪いわけではない。議会の役割は、学校でもリアルな政治が扱いやすいような環境をつくること。例)外部団体(学生など)と超党派で主権者教育チームをつくる。政治活動として扱わない。主権者教育は「教育」であり「イベント」ではない。

読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局渡辺嘉久氏は、日本の人口減少の現状と課題を示した後に、「何が投票を促すか」の調査結果を示された。

「投票に行く？」x「政治はかえられる？」、投票に行く人の意識調査の結果は、22%が政治は変えられる、49%がどちらかと言えば変えられる。という結果であった。一方、行かない人の調査結果は、40%がどちらかと言えば変えられない、24%が変えられない、28%がどちらかと言えば変えられる。という結果を示されました。



盛岡市議会議長遠藤政幸氏は、盛岡市議会が取り組んだ高校生議会の取り組みの発表があった。平成28年12月から高校生議会開催検討を議会運営員会で検討し平成29年7月第1回高校生議会を開催した。目的は、「議会による主権者教育として、高校生が議会を経験する機会を設けたい」「議員にとっても刺激を得る機会としたい」。方法としては、議員がファシリテーターとなり進行、ワールドカフェ方式を採用し、学生と議員がテーブルを移動しながら市政について意見交換した。結果、参加者の声としては、「市政に関心を持った」「議会の役割が理解できた」の声があったと報告がありました。

<10月10日9時～課題討議「主幹者教育の取り組み報告」>

コーディネーター:河村 和徳:東北大学大学院情報科学研究科准教授

事例報告者

白鳥 敏明:伊那市議会前議長

諸岡 覚 :四日市市議会議員(第83代議長)

服部 香代 :山鹿市議会議長



東北大学大学院情報科学研究科准教授河村和徳氏からは、地方議会と主権者教育と題してお話がありました。理想としては、主権者教育は基本的にシチズンシップ教育であるべき。地域の社会的課題を自ら認識し、経験を含めた形で社会を改善していく力を養う方向にもっていくべき。社会には多様な意見があり、多様な意見があることを理解する。(⇒ディベート)ところが現実には、知識の享受(制度の理解)が中心、正解を教えようとする。投票者重視(模擬投票)の教育。実施の主体が「公(教育委員会、選挙管理委員会)」等あるが連携が不十分と。

伊那市議会前議長白鳥敏明氏からは、高校生議会の議会傍聴と意見交換の取り組みの発表があった。伊那市は、平成30年の市議会議員選挙が無投票(定数21人)なり、議員のなりて不足に危機感を抱く。平成30年6月、全員参加の「魅力ある議会づくり検討会」を設置し、開かれた議会を目指し、議会改革の一環として実施。議会への関心を高めるための方策として、若い世代、特に高校生に議会への関心を高めてもらうために、高校生の議会傍聴、高校生との意見交換の企画を決定した。そして、令和元年に私立伊那西高校生徒の議会傍聴(一般質問)し7月に意見交換を行った。令和2年と3年は新型コロナのため中止したが、令和4年からは市内全校を訪問し、議会傍聴、意見交換の実施を依頼した。効果としては、議員と意見交換することの大切さを感じていただくだけでなく、意見交換委参加した高校生による請願の提出があり、全会一致で採択し、高校生から執行部に要望を提出したと。

四日市市議会議員(第83代議長)諸岡覚氏からは、「ワイ！ワイ！GIKAI」の開催の経緯とその様相について発表がありました。よっかいち市議会だより#こども号も発刊したと。

山鹿市議会議長服部香代誌からは、山鹿議会が取り組んだシチズンシップ教室について発表がありました。服部氏は、主権者教育とは何ぞやの問いに、学び合い、将来の政治参加を促す、民主主義を伝える機会と考えを述べられた。更に子供たちの主権者教育は、小学校、中学校、高校生と、内容は対象によって変えて行う必要がある。と提言されました。熊本女性議員の会が、女性のための女性塾を行っているという紹介もありました。



<感想>

私が属している、自由民主党岡山県看護連盟支部の会員は9,500人程度いますが、若者世代の投票率が低く、選挙で票が取れない団体だといっても過言ではありません。一方看護職は市民や入院患者の健康を支え、生活に寄り添う仕事であり、人が生きる上での課題に常に直面しているはずであるが声を届けるという行動が起こせていないのが現状です。私たちの生活は、制度や政策に大きく影響を受けているのになぜ看護職の主権者教育は進まないのだろうかと常々思ってきましたが、今回の研修を受けて答えが見えたような気がします。「声を出しても何も変わらない」「変える努力の跡も伝わらない」、これでは選挙行動にはつながらないし、政治離れするのもごもつとも言えます。真庭市民から「議員が何をやっているのか分からない」という声を聞くが、情報の発信と行動の可視化が不足していると改めて認識しました。

真庭市議会の現状を見ても、かつて行っていた高校生議会は、JCのパフォーマンスにも見て取れる。市民と語る会を行ってはいるが、頂いた意見をフォームページには載せるものの、執行部に届けてどうなったか素早いフィードバックできていない。これではまた参加して、声を届けようという気持ちにはならないのではないかと思います。高校生との意見交換も行ってはいるが、テーマは議員が決めて、グループワークをしても議員ばかりが発言している様子も見られる。何の目的で意見交換をするのか決めて、そのアプローチの仕方も議員全員協議会でよく議論して実施すべきと思う。

主権者教育は教育の一環として進められるべきであり、その中で議会が果たす役割を明確にして取り組むべきだと思う。間違っても「議員が教えてやろう」なんて意識を持つてはいけませんが、古参の議員の意識や行動を変えるのは難しい事です。

報告書（継紙）